

「御子の福音」

(ローマ1:1-7)

一、パウロの自己紹介

パウロは、自身のことを「キリスト・イエスのしもべ」と、自己紹介しました。ところが、原文の順序はこうなっています。「パウロ、しもべ（＝奴隷）、キリスト、イエス」と。すなわち、「私はパウロで奴隷です、キリスト・イエスの」と語っているわけです。その際、喜びをもって語っているように思われます。キリスト・イエスの奴隷になったとは、罪から解放されて自由になったということだからです。主イエス・キリストと出会うまでのパウロは、律法の奴隷でした。罪の奴隷でした。「私には、自分のしていることが分かりません。自分がしたいと願うことはせずに、むしろ自分が憎んでいることを行っているからです」(ローマ7・15)と嘆かざるを得ない人間でした。ですが、主イエス・キリストに出会うことにより、神に敵対する罪の力、肉の力、己の努力によって神の前に義と認められようとする力から解放されて自由になりました。そういうわけで、**「キリスト・イエスのしもべ」と**と語ることができました。

続いて、**「神の福音のために選び出され、使徒として召されたパウロから。」**

と語っています。パウロは、異邦人に主イエス・キリストの福音を伝える「使徒」として、すなわち「遣わされた者」として働きを続けました。ですが、自己紹介の順序として最初に語ったことばは、「私は奴隷です、キリスト・イエスの」でした。パウロは生涯に亘り、この表現を好んで使いました。主イエス・キリストと出会い、キリストのしもべ（＝奴隷）としての自分を誇りに思い、楽しんでいたようにも思われます。

二、御子の福音

2節、3節を見てまいります。↑
この福音は、神がご自分の預言者たちを通して、聖書にあらかじめ約束されたもので、御子に関するものです。とあります。縮めると「この福音は、御子に関するものです」となります。「御子」とは、原文では「彼の子」と書かれています。すなわち「父の子」です。その意味は「神の子」です。そこで訳語は「御子」になっています。「御子」は主イエス・キリストを指します。パウロが語っているのは、御子イエス・キリストの福音、すなわち善き知らせです。

3節後半をご覧ください。**「御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、」**と語られています。その意味は、御子が人となられた、しかも預言者たちを通して語られ、聖書(旧約聖書)で約束されていたように、人として生まれられた、ということなのです。

た、ということなのです。

4節には、**「聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。」**と語られています。人となられた御子は、私たちの罪のために死なれ、神によって、死者の中から復活させられることによって、罪からの救い主、主イエス・キリストとして公に示されました。元々御子であられる方が、十字架で贖いの死を遂げられ、三日目に死者の中から復活させられたことによって、公に神の子として示されました。

なお、私共はこの聖句を聖書全体の中の一聖句として読みますので、「御子」「神の子」を、三位一体の神としての、父と子の関係の意味で読むこととなります。

三、信仰の従順

5節を見てまいります。↑
この方によって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。御名のために、すべての異邦人の中に信仰の従順をもたらすためです。とあります。↑**「この方」とは、主イエス・キリストです。今や神は、主イエス・キリストによって私共に語られ、命じられます。主イエスの使徒たち、またパウロ、及び同労者たちは、主イエス・キリストと出会うことにより、使徒として、神のことば（＝福音）を伝える務**

めを受けました。その働きは、**「御名のために、すべての異邦人の中に信仰の従順をもたらすためです。」**でした。どういふことなのでしょう。それは、主イエス・キリストを信じるとは、各自が自分勝手に信じていることではない、ということなのです。パウロは、ユダヤ人名でサウロは、熱烈なユダヤ教徒でした。サウロは、ダマスコにいるキリスト教徒を迫害するために向かっていた途上で、強烈な光に照らされて目が見えなくなり、復活の主イエス・キリストに出会いました。そして、主イエスこそ、聖書(旧約聖書)が語っているキリストであることを知り、ただちに「主イエスこそキリストであり、神の子である」と宣べ伝えるようになりました。ですが、サウロ(パウロ)が、使徒たちの教えに耳を貸さなかったのかと云えば、そうではなかったことを知ります。「私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって」(1コリント15・3)と語っていることから分かれます。**「御名のために、すべての異邦人の中に信仰の従順をもたらすためです。」**に、ローマに起こされたキリストを信じる家々の教会を整え、強めたいという気持ちが表示されています。

私共に適用するならば、聖書に聞くことです。聖書は一人で学ぶこともできますが、聖書自身は、集まって礼拝を献げることの大切さを語っています。